

ルポ 久保田智子が特別養子縁組を選んだ訳  
**私が母になるまで**

トランプ  
大統領を見限る  
法の番人たち

新型コロナ  
ワクチン接種  
あなたの順番は？

ニュースウィーク日本版

定価480円

**Newsweek**

# ルポ特別養子縁組

元アナウンサーの  
久保田智子が母になった  
出産ではなく  
養子を迎えて——

2020

**12・22**

昭和六十一年三月四日（木）発行  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
電話 03-5561-0101

# Special Report

ADOPTION

ルポ

特別養子縁組って何？  
この制度がつないだ縁で  
母となった久保田智子が  
見つけた「幸せ」とは――

小暮聡子  
(本誌記者)

ONE AND ONLY FAMILY : A STORY OF ADOPTION

## 特別養子縁組が生む幸せのカタチ

3人をつなぐもの  
TBS元アナウンサーの  
久保田智子と夫の平本  
(左)と一人娘

### 「養

子」という言葉を聞いたとき、どんなイメージを抱くだろうか。何か事情がありそうな子供、「かわいそうな」子供、もしくは「幸せな」子供――？

「特別養子縁組」についての印象となると、今の日本では「どちらともいえない」が68・4%を占める。今年3月に日本財団が行った調査によると、この回答のほかポジテ

イブなイメージを持つている人が25・4%なのに対し、ネガティブな回答をした人は6・2%しかないなかった。一方で、そもそも特別養子縁組制度について「内容をよく知っている」という人は、7%にすぎない。

特別養子縁組は、生みの親、養子となる子供、育てる親それぞれが幸せになることを積極的に目指す制度である。しかしこれまで、どちらかというと「子供の福祉のための制

度」という視点が強調され、特別養子縁組によって親となることの喜びは広くは語られてこなかった。

TBS（東京放送）の元アナウンサーで、2016年に一度退社した後、12月1日付で同社の報道局に復帰した久保田智子（43）は19年1月

もし子供を持つことを希望する人がいるのなら、若いうちから少しでも多くの人に選択肢の1つとして知ってほしい。ここにつづるのは、特別養子縁組がつないだ縁で母となった、久保田智子と家族の物語だ。

特別養子縁組とは、厚生労働省の言葉で言うと、「子の福祉を積極的に確保する観点から、戸籍の記載が実親子とほぼ同様の縁組形式をとる

\*

ものとして、昭和62年に成立した縁組形式」のことだ。

より一般的に認知されている「普通養子縁組」では、戸籍に「養親」と共に生物学上の「実親」が併記され、実親と養子との間に扶養・相続といった権利・義務等の法律上の関係が残る。これに対し、特別養子縁組では実親との親族関係は終了し、

戸籍では養子の続柄は「長男／長女」等と記載される。実父母の名前はどこにもない。端的に言えば、特別養子縁組とは法律上も「実の親子」になる制度である。

特別養子縁組は各自治体の児童相談所、もしくは民間団体によって斡旋されるが、その目的は「実親の元で暮らすことができない子供にとって最善の利益を保障すること」にある。

現在の日本には、実の親の元で暮らすことができない子供が約4万4000人いる。そのうち約8割は児童養護施設や乳児院などの施設で暮らしている。

国連が実親の元で暮らせない子供に里親等による家庭養育を推進するなか、16年、日本でも「全ての

## 特別養子縁組制度とは

戸籍の表記	養子縁組制度		里親
	特別養子縁組	普通養子縁組	
戸籍の表記	長男／長女 (実子と同じ)	養子／養女	—
生みの親との関係	終了	継続	継続
相続 扶養	子は育ての親の扶養義務と相続権を持つ	子は生みの親と育ての親の扶養義務と相続権を持つ	—
育ての親との関係の解消(離縁)	原則として不可	認められる	自立するか生みの親の元に戻る
子供の年齢	原則として15歳未満	制限なし(ただし、育ての親より年下であること)	原則として18歳まで
育ての親	原則として25歳以上の婚姻関係にある夫婦	20歳以上、独身でも可	年齢に制限なし
縁組の成立形式	家庭裁判所が決定	育ての親と子供の親権者の合意	児童相談所からの委託

の子供に家庭を」という方針に舵が切られた。児童福祉法が改正され、子供が家庭において心身ともに健やかに養育されることが困難な場合は必要な措置を取る、といった「家庭養育

の原則」が明記されたのだ。今年4月には民法が改正され、特別養子縁組の対象年齢がこれまでの6歳未満から15歳未満に引き上げられ、条件付きで17歳までの縁組も可能となった。根底には、子供はできる限り安定した親子関係の下、家庭で育てられるべきとの考えがある。

特別養子縁組の成立件数は、近年では05〜12年まで年間300件強で推移していたが、13年以降は大幅に増加し、18年は624件、19年には711件となった。それでも、多くの子供が施設で暮らしている状況を考えれば、まだ少ない。

### 「家族」に血縁関係は必要か

「私、養子を迎えようと思うの」。今から2年前の18年12月20日、久保田は数カ月ぶりに再会した筆者に突如そう言った。久保田は15年、日本テレビ政治部記者の平本と結婚し、翌年4月、ニューヨーク支局勤務となっていた平本と現地での生活を始めた。18年12月初めに夫婦で帰国すると、年明け早々に養子を迎えるつもりだと、仕事でもプライベートでも付き合っていた筆者に告げたのだった。

その言葉どおり、久保田は19年1月28日、3380歳の女児の母となった。ハナちゃんは現在、1歳10カ月。都内にある久保田と平本の自宅

リビングの隣には、窓から光がたっぷり差し込む子供部屋がある。部屋の主であるハナちゃんは、最近はずっと追うごとに言葉が増え、いつ会っても久保田に似て笑顔が絶えない。

久保田は20代の時、自分が不妊症であることを知った。「できないかもしれない」と思ったところが、欲しいと思った始まりのような気がする」と、久保田は語った。「お医者さんは、子供は難しいでしょうという言い方だった」

恋愛も結婚もこれからという、20代初めのことだった。それでも、アウンサーとしてTBSに入社した久保田は「筑紫哲也NEWS23」「報道特集」などの報道番組から「どうぶつ奇想天外！」などのバラエティーまで幅広く担当し、昼夜間わず働き続けた16年の間、いつか結婚して子供を育てたいという希望を捨てることはなかった。高校の保健体育の授業で、子供を儲けることができないう夫婦もいるけれど、養子縁組という可能性もあるという知識を得ていたからだ。「早い段階から養子という選択肢が自分の中にあつたことは、私にとってはとても良かった」と、久保田は言う。

久保田は結婚を前提とした付き合いの中で、平本に子供を産むことは難しいと告げた。そのとき、「彼はとてもポジティブで切り替えが早か

った」と言う。平本に当時の心境を聞くと、「僕は久保田智子と生きていくと決めていたから。子供ができなから智子と結婚しないという発想は、僕にはあり得なかった」。

自分の血のつながった子供を欲しいとは思わなかったのか。今年2月、私は平本に、久保田が泣きじゃくるハナちゃんをあやしに席を外した際に聞いた。すると平本は、こう言った。「家族って何かを考えたときに、僕は一緒に暮らしていく仲間だと思っている。久保田智子も元は赤の他人で、血のつながりはないけれど籍を入れてパートナーになった。ハナちゃんも血のつながりはないけれど、籍を入れてファミリーになる。それでいいんじゃないかな」

### 子供に出会うまでの道のり

確かに特別養子縁組では、血のつながりのない者同士が、入籍を経て家族になる。子供に出会うまでの道のりは、誰かの仲介によってお見合い結婚をするプロセスに似ていると言えなくもない。

特別養子縁組をして親になる方法は、主に2つある。まず、乳児院や児童養護施設にいる子供を、自分が住んでいる自治体の児童相談所を通して迎える方法。2つ目に、生みの親から直接子供を託された民間団体によって仲介される方法だ。



母子のつながり 久保田は「ママ」と呼ばれることで母になっていった

下」が88%を占めたのに対し、209カ所の児童相談所で成立した「1歳以下」の事例は全体の48.5%と半数に満たない。

児童相談所による手続きは各所によってさまざまだが、民間団体と違って、新生児であってもほとんどの場合、一度は乳児院に入る。その背

2つの大きな違いは、1つには民間団体は予期せぬ妊娠等で育てられない親からの相談窓口を持っており、新生児の仲介、いわゆる「赤ちゃん縁組」を中心に行っていることだろう。厚生省の17年の資料によれば、調査対象とした民間団体20カ所の特別養子縁組の成立事例では「1歳以

景に、数カ月間は乳児院で預かることで新生児の健康状態を観察したり、障害の有無を確認したりするほか、可能な限り生んだ親が育てるべきとの観点から、母性の目覚めを待とうという意図があるともいわれる。

一方で子供の立場からすれば、生後の数カ月間という、継続的に抱っこされることで養育者に対する愛着を形成するといわれる時期を乳児院で過ごすことになる。

費用面での違いを見ると、児童相談所を介する場合は養親の出費は基本的にはない。他方、民間団体を通す場合は養親側が出産費用(生みの親が出産育児一時金制度を利用できる場合もある)に加えて、幹旋料や研修等にかかる諸経費を支払う。

今年11月の時点で、都道府県知事から許可を受けた民間団体等は全国に22あり、各団体によって養親候補の要件や、かかる費用、子供を受託するまでの研修を含めたプロセスや、養子縁組をした後のフォローの内容等は異なる。各団体がホームページでこうした情報がある程度公開しているため、養親を希望する人はまずはネットで「団体選び」から始めることになる。

「平本さんたちは、海外にいたせい

かな。とつてもライトな感覚で説明会にいらした」と、鈴木久美子(53)は2年前の12月を振り返る。千葉県の社会福祉法人「生活クラブ風の村」の特別養子縁組幹旋事業部「ベビースマイル」で19年4月から相談員として働く鈴木は、前職の民間団体に勤めていた際にハナちゃんと平本夫妻を結び付けた立役者だ。

日本に帰国する前にインターネットで民間団体を選び、さまざまな情報を登録していた久保田と平本は、18年12月に登録団体の説明会に参加するという一歩を踏み出した。

特別養子縁組が可能となる養親の要件として、まず養親は婚姻関係にある夫婦でなければならず、よって事実婚や独身者、同性パートナーは不可となる。また、子供を委託された後の試験養育期間に家庭裁判所の審査を通るためには夫婦が同居していなければならないなど、制度上のハードルがある。

次に、民間団体は養親候補の要件として登録時に例えば45歳まで等年齢制限を設けているところが多い。考慮事項として年収、雇用形態、健康状態、養親となった直後の共働きの可否などがあり、要件を全ては公表していないところもあれば、必ずしも全ての要件をクリアしていなくても柔軟に検討される場合もある。

久保田は、ネット上で登録する時

点で「ものすごくたくさんさんの個人情報」をさらした」と言う。「年収はどれくらいですか？ 勤め先はどちらですか？ 結婚したのは何歳の時ですか？ いま何年目ですか？ あなたはどのような子供で、どのような環境で育ちましたか？ どのように育てたいですか？ 宗教は？ 夫婦仲はどうですか？……とか、たくさん書くところがあった。台所とリビングと、子供部屋になる予定の部屋の写真も送った。もちろん、そんな個人情報さらすのはすごく嫌なんだけど、ちゃんと育てられる環境かというのを見ているのだと思う」

厚生省が17年に発表した資料によれば、20の民間団体が斡旋した381件の特別養子縁組のうち、成立時の養親の年齢（夫婦のうち若いほう）は30代後半が27%、40代前半が39%、40代後半が15%だった。養親希望者の多くは、厳しい不妊治療の末に特別養子縁組という選択肢にたどり着くともいわれる。

## 「子供のための制度」である理由

同じく鈴木由の仲介によって今年8月に新生児を受託した46歳同士の夫婦、米田一郎と尚子（いずれも仮名）も、そうした道のりを経た2人だ。「不妊治療の試練も、この子に出会うためだったのかもしれない」と語る尚子は、不妊治療に6・0万

円ほど費やした後、46歳で特別養子縁組という選択をした。

9月半ば、夏の暑さが残る日の夕方に東京近郊の自宅を訪ねると、父と母になったばかりの米田夫妻は人なつこい大きな愛犬と共に迎えてくれた。ベビーベッドの中では、小さな小さな女の子が気持ちよさそうに寝息を立てている。



不妊治療を経て 米田尚子は、不妊治療の試練は娘に出会うためだったのかもしれないと語る、(左ページ)米田の娘のベビー服

というのをひたすら繰り返した」と、尚子は語る。

4年前、体外受精を始める際に「勝負は1年」と医者に言われた。「なので私たちも、取りあえず1回やってみよう」と。でもその後は、今回は駄目でも、次にやったらできるんじゃないかって……とどんどんやめられなくなっていくた

2人と1匹で生きていくのも幸せかもしれない。今年6月に最後の移植が成功しなかったときには、そうも思ったが、「自分が死ぬ間際に後悔したくないという意識が消えなかった。ああやっぱ子供を育ててみたかった」と、尚子は振り返る。

こうした過程を経て特別養子縁組を希望する人が、養親登録の過程で究極の個人情報どころか心の内まで丸裸にされ、親としての適性があるか否かを他人に判断された上で、ある意味「選ばれた人」だけが親になれる……多くの家族と同様、子供が欲しい、育てたいという思いだけでは駄目なのか。あえてうがった見方を鈴木にぶつ

体ベアホープの代表、ロング朋子によると、「特別養子縁組を望む人はたくさんいます。養親希望者の説明会を告知すると、あつと言う間に座席が埋まる。でも、その全員が『どんな子供でも迎えたい』と言ってくるかという点、そうではない」。

養親になりたいと希望する人は決して少なくない一方で、虐待を受けて医療的なケアを必要としている子供や障害を持った子供、高齢年齢などが今もどこかで受け入れ家庭を待っているという状況がある。性暴力による妊娠など生みの親側の事情を例として聞いて、受け入れを尻込みする夫婦もいる。

17年の厚生省資料では、児童相談所、民間団体ともに特別養子縁組の「養親候補者が不在だったケース」のうち、「児童の障害等の要因のため希望する養親候補者がいなかった」が45%と最も多い。特別養子縁組事業に携わって来年で10年目という鈴木は、これまで生みの親側の相談に500件ほど応じてきたが、縁組成立に至ったのは243件だ。

## 「赤ちゃん」から「わが子」へ

養親希望者と養子候補者、双方が列を成しているのに、「マッチング」が成立しない。ここに、特別養子縁組が「あくまで子供のための制度」であると強調される理由がある。子

供を育てたい大人の「エゴ」を満たすための制度ではない、と。

冒頭に、特別養子縁組は「生みの親、養子となる子供、育てる親それぞれが幸せになることを積極的に目指す制度である」と書いた。しかし、この3者のうち子供だけは、選択権も選択肢も持っていない。子は親を選べない。

ロングは言う。「子供のことを全人格的に受け入れられる養親希望者ばかりではないという状況では、親になりた大人のための制度でもある、と言うことはできない。家族になりたい『親子のための制度』にはまだ遠い」



「子供のための制度」——後にこの概念が、母となった久保田の心をはがんにがらめにしていく。しかしこの時の久保田は、不安を抱きながらも、熟慮の上で「どんな子供でも大切に育てます」と鈴木に伝えた。既に固まっていた2人の決断を後押ししたのは、平本の兄夫婦の言葉だった。

平本は言う。「おふくろからは反対された。養子を育てるなんて大変だろうし、2人で幸せに生きていけ

ばいいじゃない、と。その後、話し合う時間を持っていないまま母は亡くなってしまい、とても悩んだが、その時に考えたのは今後自分が人生を共にしていくのは母親ではなく5歳上の兄貴だということ。久保田家もそうだが、迎え入れる子供を兄夫婦がファミリーとして歓迎してくれるかは、僕にとっては重要だった」

子供を産んで育てている平本の義姉が、久保田が鈴木に返事をする前日に言ってくれたひとこととは、平本と久保田をその後も支えている。「産むことによっても家族になるけど、育てて初めて愛着は湧くから」——。

19年1月23日、ハナちゃんが誕生した。12月中旬に家庭訪問や研修を終え、養親として本登録を済ませていた久保田は、この日を迎えるまで毎日24時間、子供のことしか頭になかった。鈴木から、「1月末に生まれる子供」の受け入れを打診されていたからだ。「とにかく元気に生まれてきてほしい。もう、本当にそれだけ」。ハナちゃん誕生前夜の1月22日に久保田に会うと、彼女はそう言って祈るように手を合わせた。いつ生まれても

おかしくないと、夕食中も時おり携帯電話に目をやる。

ただし、この時にはハナちゃんに出会えるかどうか、まだ不確定要素が存在していた。特別養子縁組の成立要件として特段の事由がない限り実親の同意が必須で、産んだ後に母性が芽生え翻意するケースもある。

鈴木からは、赤ちゃんグッズはまだ買わないようにとも言われていた。ネットで調べられるものは調べ尽くして、「ロンパース」とは何かを初めて知り、落ち着かない日々を過ごしていた久保田に鈴木から「無事に生まれました」とメールが届いたのは翌日のことだ。

鈴木から送られてきた写真を目にしたときの心境を、久保田はこう振り返った。「もちろんすごくうれしかった。でも同時に、生まれたばかりの赤ちゃんを見て、私はこの子にちゃんと愛情を注げるんだろうかと。そこが一番不安だったかもしれない。彼女が言葉を話すように続ける。……産むという行為をしていないから。10カ月間育まれた待ち遠しさみたいなものもないし、全てがぼんぼんと決まっていた。そこで写真としてパッと送られてきて、やっぱり遠い存在なんだよね」

それでも、心に確かな動きを感じた。それまで「赤ちゃん」という言葉も漠然としたイメージだったのが、

写真を見て一気に「この子」に変わったという。「私はこの子と人生を共にしていくんだなって。不安になつたというより現実に戻った感じだった」

### 生んでいないという劣等感

血のつながりのない子供を「わが子」として愛せるのか。特別養子縁組を検討する人にとっては、気掛かりな点の1つだ。ハナちゃんと1年10カ月過ごしてきた久保田は、今となっては「毎日一緒にいるということの強さ、その連続性が、愛情を育むのかもしれない」と思う。

今年11月のある日の夕方、キッチンに立ちハナちゃんのためにハンバーグを作る久保田の姿は、古くから世間に流布する「幸せなお母さん」像そのものだ。心の声をつぶやくかのように、「何だろう、ハナちゃんがいって、本当に幸せだなあ……思うんだよね」と言う。

だがあの頃、ハナちゃんをわが家に迎えた当初は、「母と子」というずっと憧れていた「夢の世界」に浸る一方で、「お母さんって、これで合っているのかな」と、自信がなかった。

「自分からは『ママだよ』って、どうしても言えなかった。そんなこと言っちゃいけないんじゃないかと、ずっと思っていた」

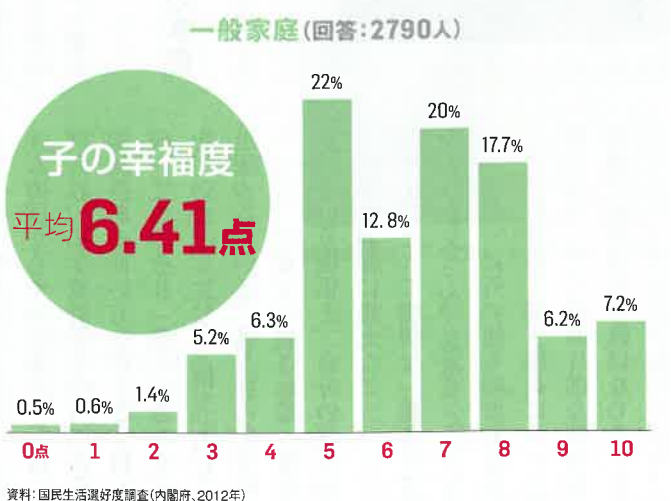
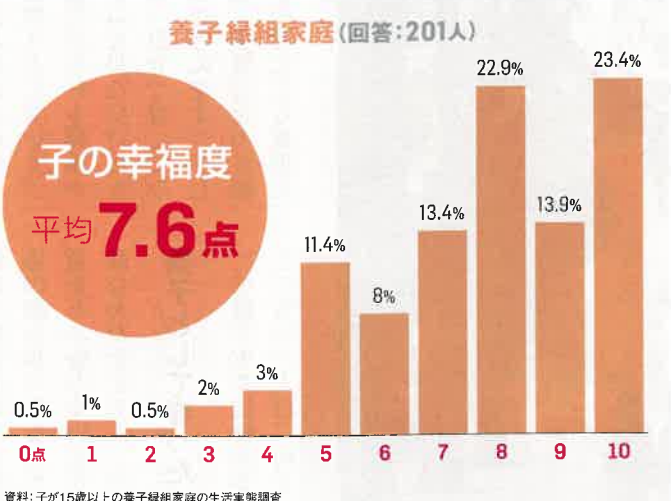
親が家庭裁判所に縁組の申し立てをし、6カ月以上の試験養育期間を経て家庭裁判所が審判を下す。本日もって、あなたたちは正式に親子です、と。

だが、親子をつくるのは紙ではない。今年4月には、ハナちゃんが自分のほうから「ママ」と呼んでくれた。代替可能な誰かではなく「私」を求めているのだと分かって、久保田も「ママだよ」と言えるようになった。

今では、既成概念の「母と子」ではなく、「私とハナちゃん」という言い方がしっくりくる。たった1つ

## 養子の子供は幸せなのか？

日本財団が16年に子供が15歳以上の特別養子縁組と普通養子縁組の家庭を対象に行った調査によると、子供の幸福度は養子のほうが一般家庭の平均よりも高い。養子の回答では「10点」の割合が23.4%と最も高かった。



### の、新しい関係性を2人で一緒にくくっていると感じている。

### 真実告知と生みの親の事情

特別養子縁組家庭に他の多くの家族との違いがあるとすれば、それは子育てをするなかで親が子供に、血縁関係がないと知らせるプロセスを踏むことだ。

特別養子縁組は戸籍上も実の親子になる制度だが、子供には自分の出自を知る権利がある。戸籍に「民法817条の2による裁判確定日」令和〇年〇月〇日」と記載されるのは、その権利を保障するためのだ。

出産という赤ちゃんとの共同作業を経たため、「どんなに他のママたちと同様に懸命にミルクをあげ、オムツを替え、夜泣きをすればずっと抱きかかえて過しても、どこかママごっこでもさせてもらっているかのような虚構感が私を襲うのです」——そう久保田自身がつづけた原稿が、私の手元にある。当時、本誌にコラムニストとして寄稿していた彼女に、子供のころのことを文章にしたという気持ちになつたら何でもいいから書いてみてほしいと依頼していたのだ。

「ご縁がありましたら養子を授かりました。いま私はとても幸せです」

ついに公開するに至らなかったその原稿は、そう書きだされる。「早く公表したいと思いつつ、この始まりの2行を素直に書けるようになるまで3カ月もかかってしまいました。……ハナコのことかとてもかわいしい、私は今までに感じたことのない幸福感を日々味わっています。でも、自分が産んでいないことへの劣等感のため、自分の幸せを素直に肯定できなかったのです」

久保田の劣等感は、「おなかを痛めて産んでこそ母になる」という社



仲介者 縁組をサポートする鈴木は、生みの親にも寄り添う

かという不安が押し寄せる。母乳をあげるなど物理的にできないことに直面すると、他の母たち以上に努力しなければと必死になった。児童相談所の職員による家庭訪問を受けると、母親として信頼できるのか、合格点を点検されているようにさえ思えた。決められたマニュアルに従い、模範的な母親になって初

育ての親が子供に出自を告げるプロセスは「真実告知」と呼ばれ、いつ、どういう言い方でどこまで伝えるのかについての決まりはない。それぞれの親子関係の中で模索されることになるが、新生児から育てている場合は物心がつく前から、お母さんのおなかからは生まれていないけれどこんな大切に思っている、などと伝えることが推奨されている。

他方で、生みの親の事情をありのままに伝えるべきかどうかは難しい。鈴木によれば、女性たちから相談の連絡が入るのは、中期中絶(妊娠12〜22週未満)ができなくなった妊

会に根強い概念を上書きする論理を自分がまだ持っていないことに加えて、特別養子縁組は「子供のための制度である」というもう1つの概念にも根差していた。子供を授けたい親のための制度ではない、その言われると、親になった喜びを受け入れるより先に、子供のために「いいママ」になれているのだろうか

めで多くの「母と子」と同じストーリーラインに立てる——そう焦るなかでがんじがらめになつていった。

当時の久保田は、そんな呪縛を克服しようとして「私がハナコママである必然性」を探していた。なぜハナちゃんにとって、自分にとって、お互いがお互いじゃないと駄目なのか。その理由を、きつとハナちゃんは知りたがるだろう、と。おなかの中から生まれていなくてもつながりがあるのだと、「運命」以上の論理的な説明を求めていた。

「私はママになった、というよりは、日々ママになりつつある、という状況です」と、未公開に終わった原稿は結ばれる。

しかしその後、1日8回のミルクから手作りの離乳食へ、抱っこひもから電動自転車のチャイルドシートへと2人で積み重ねてきた時間が、久保田に予想もしていなかったロジックを生み出していくことになる。「ずっと一緒にいて生活していくと、そこで得られるものは自分の想像をはるかに超えていた」と、今の久保田はどこか解放されたかのように語る。「その関係性を言葉にすることは今も難しいのだけれど、とにかく、すごくいい」

19年11月、平本夫妻とハナちゃん、戸籍上も「実の親子」となった。特別養子縁組が成立するには育ての

娠22週以降が多い。もともと生理不順で生理が止まっても気にしていなかった、便秘気味で初期の胎動を排泄の動きと勘違いしていたという声をたびたび聞くほか、妊娠に気付けないような生活をしている、社会的に弱い立場の女性も少なくない。

ようやく病院に行く中期中絶は費用も高額で危険が伴うと告げられ、怖くなってそれ以降は病院に行かず、妊婦健診も受けないまま時間が過ぎる。民間団体に委託する場合は生みの親の側に出産に関わる費用は発生しないという情報を得て連絡してくる人の中には、15歳以下を含む未成年者もいれば、婚外子を妊娠した既婚者や独身者もいる。

「産み捨て」のニュースが後を絶たないなか、鈴木は、育てられる方法がある場合でも「あなた、本当は育てられるでしょう」などと追い詰めるようなことは言わない。「相談者は勇気を振り絞って連絡してきてくれる。頭ごなしに指導的発言をする」と相手の心が折れてしまい、連絡が途絶えてしまうことが多い。そうやってしまったら、生まれてくる命も生みの親の現状も救えなくなる」

相手の言葉に耳を傾け、相談に乗るながら、さまざまな選択肢を提示し、一緒に考えていく。その上で、「特別養子縁組をすることが子供にとって最善だ」と彼女たち自身が判

断し、決断するのであれば、ベストな縁組に向けてサポートしていく。鈴木は言う。「育てられる環境がないため、別れざるを得ない。ほとんどの生みの親は、自分で育ててみたいと必ず一度は思うんです。そして、一生懸命考え、子供にとって縁組することが一番幸せになる選択だ、

組は、親と子のそれぞれの未来のための第一歩。あなたも子供も自分の道をしっかりと歩いて行くための選択枝なのだ」と。

**養子として育った彼女の本音**

では、実際に特別養子縁組の子として育った人は、何をどう感じて生



一歩一歩 村田母子の道のりはこの先も続いて行く(11月、大阪)

があつた。物心がつく前から「赤ちゃんの国からやって来た」と母に告げられ、小学校低学年の時に授業で国語辞典の使い方を習うと、自宅に帰ってこっそり「養子」という言葉を引き出した。「これって何? 自分?」と思つたという。幼少期の明子にとっては、言葉で定義される「養子縁組」という関係と、自分の現実の親子関係は別物に思えた。

明子にとって両親は「養親」ではなく「お父さん、お母さん」、つまり「実親」以外の何ものでもなかった。それでも、養子縁組について周囲から入ってくる断片的な情報から18歳で家を出なければならぬのかと「パニックになった」という。小学校高学年までは「養子って何だろう」ともややもやする気持ちが続いたが、親には聞いてはいけないことのような気がしていた。

初めて聞く娘の率直な思いを、傍らの母親は神妙な面持ちで受け止めながらこう言った。「私はこれまで、「生みのお母さん」という言い方をしたことは一度もない。明子にとってのお母さんは、私一人だけだから」

明子を育てる日々は「毎日がとにかく必死だった」という母親は、それでも数年前から里親制度で小学生の子供を育てている。「私は特別養子縁組という制度で親になることが

自分を感じながら育つたわけではない。周囲からの視線で嫌な思いをした記憶もほとんどない。中学と高校は「暗黒時代」で反抗期もあつたが、それは「養子」であることとは関係ない。そう自分のことをどこか客観的な視点で語る明子だが、一方で自分のアイデンティティーを多くの言葉で模索してきたように見えた。

彼女の本音をもっと聞き、母親にも会いたい。そう思い、今年11月初

勝手な「配慮」は要らなかったし、制度についての情報は全て教えてほしかった。「実母」という言葉で語られる人が自分で育てられなかった事情を聞いてもいいことがなさそうだし、会いたいとも特に思わない。だが最近では、乳癌など遺伝性のある病気を持っているのか、どういう体形なのかなど、女性であるが故に気になることはある。

と決断します。泣かない生みの親はいません」

鈴木は10年前、当時18歳だった息子を突然死で亡くしている。言葉にできない喪失感、鈴木自身も経験した。子を放手す親に対して、鈴木は「あなたも幸せにならないといけない」と語り掛ける。「特別養子縁

きてきたのか。

今年から大阪で社会人1年生として働く23歳の村田明子(仮名)にオンラインで話を聞くと、父と母からは大切にされ、養子であることを特に意識せずに育ちました、幸せですと迷いなく語ってくれた。

明子には、真実告知をされた記憶

自分を感じながら育つたわけではない。周囲からの視線で嫌な思いをした記憶もほとんどない。中学と高校は「暗黒時代」で反抗期もあつたが、それは「養子」であることとは関係ない。そう自分のことをどこか客観的な視点で語る明子だが、一方で自分のアイデンティティーを多くの言葉で模索してきたように見えた。

彼女の本音をもっと聞き、母親にも会いたい。そう思い、今年11月初

KOSUKE OKAHARA FOR NEWSWEEK JAPAN

できた。この制度に恩返しがしたかった」という。50歳を過ぎてからの2度目の挑戦は、23年前の自分の選択を肯定するからこそ、なのだろう。

**「養子」の真実と社会の理解**

ここに興味深いデータがある。日本財団が16年に子供が15歳以上の特別養子縁組(回答全体の82%)と普通養子縁組(同18%)の家庭を対象に行った調査によると、「自分が今幸せである」という幸福度は、養子のほうが一般家庭の子供の平均よりも高い(25%のチャート参照)。

また、子供を育てたことについて「とても良かった」と感じている養子は74.4%、「良かった」は21.2%、父母に育てられたことについて「とても良かった」と感じている養子は61.3%、「良かった」は29.1%と、ほとんどの親子が互いに家族になれたことを肯定的に捉えていることも分かった。

一方で、養子縁組をした762人の親子の声を集めたこの報告書は、「実際に特別養子縁組をした家庭からは、いまだに世間や学校での理解のなさで困ったという声も少なくない」とも指摘している。

社会の理解——これは、久保田が今回の取材を受けた理由の1つだった。「特別養子縁組をして幸せだと母親がオープンに語ることはハナチ

やんのためにもなるように思う」と、彼女は言う。

子供が養子であることまで他人に言う必要があるのか、久保田は一期、逡巡していた。「子供を育てています」だけでは不足なのだろうか。そう思う一方で、こんなにポジティ

げなくなっていくという。

平本は、養子に対する「先人観」を感じることもあつた。子供が生まれたと言え、一般的には「おめでとう!」と言われるところだが、「養子を迎えた」と話す「すごいね」「おまえ、えらいな」などと言われる。「それにはとても違和感がある」と、平本は言う。「うちは子供ができたから選択肢として養子縁組をして、縁があつてハナちゃんや家族になつて、ハナちゃんと楽しく過ごしている。普通のファミリーの暮らしをしているだけだから」



無数の幸せ 久保田は、幸せは単体で存在するというより「一瞬一瞬の塊」だと語る

ブな選択をしたのになぜ「隠す」必要があるのか、とも思つた。ハナちゃんを迎えた当初はそれほど親しくない人にまであえて積極的に話していたが、相手が戸惑う場面を何度か目の当たりにするうちに、気を使わせるだけなのではと感じ、次第に告

母が言った「養子を育てるのは大変」だというイメージで止まっていたのだとしたら、それはあまたある幸せなストーリーがほとんど聞こえてこなかったからだろう。平本は「今の自分たちを見れば、おふくろもきつとハナちゃんをかわいがって

くれたはずだ」と語る。

これまでに久保田がインタビュを通して語ってくれたことで、ここに書き切れなかった「小さな幸せ」は無数にある。

「夜、真つ暗な部屋のベッドで一緒に返しながら、いつしか安心したように寝息をたてるのを聞くとき。小さな手で、しっかりと私の手を握ってくる。運動会で、私を見た瞬間に列から飛び出して駆け寄ってきたとき。動物園で私が好きな動物、象とか、パンダ、コアラを、ハナちゃんも一緒に興奮して探してくる。人からどう見られるかばかりを気にしていたけれど、今は人に何とかわれなくてもいいや、ハナちゃんのためにできることを優先したいと思えた。こんなにも大切なものができたこと。ハナちゃんと一緒に歩むこれからの人生を考えると——」

久保田は真実告知をするための1つの方法として、ハナちゃん自身についての物語を絵本にするつもりだ。定型化された幸せではなく、自分たちだからこそその幸せを二人三脚で紡いでいく、その先にある唯一無二の物語。それこそが、いつか彼女がハナちゃんに語る家族の真実なのだろう。